

2024年度 愛知学泉短期大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
52421	幼児と健康 I Health for Early Childhood I	伊藤智式		専門	1	必修	1前期

科目の概要

幼児の発育発達と健康についての理解を深める。また、幼児の興味や関心、能力に応じた遊びを学び、心と体の健康を促す運動や基礎的運動技能習得の過程を理解する。そして、保育者として必要な運動と健康に関する技能を身につけるとともに、子どもの活動に関わる安全管理について学ぶ。この獲得した知識技能を活用して保育現場で課題を解決できる力を身に付ける。そして、これらの学びはディプロマポリシーの③④⑤に相当する。

学修内容	到達目標
① 幼児の心と体の発育発達と健康について学ぶ。 ② 幼児の能力に応じた運動遊びについて学ぶ。 ③ 幼児の運動技能の習得過程について学ぶ。 ④ 幼児の活動に関する安全管理を学ぶ。	① 幼児の心と体の発育発達と健康について説明することができる。(ディプロマポリシー③④) ② 幼児の能力に応じた運動遊びを系統的に理解し実践することができる。(ディプロマポリシー③④⑤) ③ 幼児の運動技能の習得過程を説明することができる。(ディプロマポリシー③④) ④ 幼児の活動に関する安全管理の方法を理解し実践することができる。(ディプロマポリシー③④⑤)

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素	学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例
---------------------	---------------------------

前に踏み出す力	主体性	自己の課題を認識し、自発的に学修に取り組むことができる。
	働きかけ力	グループ活動において、他者の意欲が高まるような積極的な働きかけができる。
	実行力	幼児の遊びの技能とその指導法を習得できるように粘り強く取り組むことができる。
考え抜く力	課題発見力	子どもの活動に関わる安全管理についての問題点を認識できる。
	計画力	授業の予習復習において、計画的に学修を進めることができる。
	創造力	与えられた課題に取り組み、それをどのように応用し発展させるかを創造できる。
チームで働く力	発信力	グループ活動において、自分の役割を自覚し、自分の考えを分かり易く相手に伝えることができる。
	傾聴力	他者の意見を尊重し、聞き入れることができる。
	柔軟性	自分と異なる意見や考えを理解し、建設的な働きかけができる。
	状況把握力	周囲の状況に配慮した適切な行動ができる。
	規律性	遅刻・無断欠席など、学習意欲欠如をきたす行動をせず、授業が円滑に進行するようにルールを守ることができる。
	ストレスコントロール力	ストレスの原因を客観的に分析し、これを克服することで、自分が成長できると捉えることができる。

テキスト及び参考文献

テキスト：なし。参考資料を随時配布します。
 参考文献：「たのしい運動あそび」岩崎洋子著：チャイルド本社。
 「体育あそび」米谷光弘著：ひかりのくに株式会社。
 「保育所保育指針」厚生労働省。「幼稚園教育要領」文部科学省。
 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府。

他科目との関連、資格との関連

他科目との関連：幼児と健康Ⅱ、保育内容(健康)、体育実技、体育講義
 関連する資格：保育士、幼稚園教諭二種免許、レクリエーションインストラクター

学修上の助言	受講生とのルール
--------	----------

<ul style="list-style-type: none"> ・ 演習で行った内容とその留意点を記録しておくこと。 ・ 子どもの視点と保育者の視点の両方から考えてほしい。 ・ 演習実技に対し積極的に取り組んでほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出席が必要回数に満たない場合は無資格となる。 ・ 課題実技を習得すること。 ・ 授業態度が悪く、他の学生の迷惑になる学生は退席してもらう。
---	---

【評価方法】

評価対象	評価方法	評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント			
学修成果	学期末試験	0	①				
			②				
			③				
			④				
	平常評価	小テスト	0	①			
				②			
				③			
				④			
		レポート	20	①		✓	・課題「幼児の興味関心と能力に応じた運動遊びについて」「幼児の発育発達と健康について」課題解決のために獲得した知識技能の応用活用について評価する。 安全管理に留意すべき点も含めて評価する。
				②		✓	
				③		✓	
				④		✓	
成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）		70	①	✓	・幼児の能力に応じた運動遊びが実践できるか評価する。 ・授業実践記録について評価する。 ・実技において安全管理の有効な方策が実践できているか評価する。 ・与えられた課題に対し積極的に取り組んでいるか評価する。 ・準備作業やグループワークにおいて、周囲の状況に配慮した取り組みができるか評価する。		
			②	✓			
			③	✓			
			④	✓			
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓	(主体性) ・自己の課題を認識し、自発的に学修に取り組むことができる。 (働きかけ力) ・グループ活動において、他者の意欲が高まるような積極的な働きかけができる。 (実行力) ・幼児の遊びの技能とその指導法を習得できるように粘り強く取り組むことができる。 (課題発見力) ・幼児体育の指導法や安全管理についての問題点を認識できる。 (創造力) ・与えられた課題に取り組み、それをどのように応用し発展させるかを創造できる。 (発音力) ・グループ活動において、自分の役割を自覚し、自分の考えを分かり易く相手に伝えることができる。 (傾聴力) ・他者の意見を尊重し、聞き入れることができる。 (情報把握力) ・周囲の状況に配慮した適切な行動ができる。 (規律性) ・遅刻、無断欠席など学修意欲欠如をきたす行動をせず、授業が円滑に進行するようにルールを守ることができる。 ・欠席した場合は、欠席届を提出し、フォローレポート課題を行う。		
			②	✓			
			③	✓			
			④	✓			
総合評価割合		100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
・幼児の心と体の発育発達と健康を理解し説明できる。(A) ・幼児の能力に応じた運動遊びを系統的に理解し実践できる。(S) ・周囲の状況を考慮し、臨機応変に対応ができる。(S)	・授業において周囲に配慮した取り組みができ、幼児の運動遊びの技能を習得できている。(C) ・授業課題に積極的に取り組み、幼児体育の指導法を理解し実践できる。(B) ・幼児の活動に関する安全管理の方法を理解し実践できる。(B)

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1	授業のねらいや内容、評価について学ぶ。幼児の運動と健康についてのこれまでの研究成果について学ぶ。	講義、演習 配布する資料の他に、クラスルームに資料を提示する。パソコンを利用して、閲覧および課題提出を行う。(以後の授業も同様である)	授業のねらいや内容、評価について理解し説明できる。	幼児の運動と健康について復習する。 (パソコンを使いクラスルームに提示された復習資料を利用する。以後の授業も同様)	45	実行力 課題発見力 傾聴力
2	幼児の基本的な運動と健康のねらいや意義について学ぶ。歩く、走る、飛ぶ、手足の動作、ゲームなどを体得する。	演習、実技 実技についての相互評価	歩く、走る、飛ぶ、手足の動作、ゲームなどを体得できる。	歩く、走る、飛ぶ、手足の動作などを記録し復習する。	45	主体性 実行力 課題発見力 規律性
3	幼児の基本的な運動と健康のねらいや意義について学ぶ。少人数での運動遊びやゲームの方法を学ぶ。	演習、実技 実技についての相互評価	幼児の基本的な体操と少人数での運動遊びやゲームの方法を理解し表現できる。	幼児の体操と少人数での運動遊びの方法を記録し復習する。	45	主体性 実行力 課題発見力 創造力 規律性
4	幼児の基本的な運動と健康のねらいや意義について学ぶ。少人数での運動遊びやゲームの様々な方法を学ぶ。	演習、実技 実技についての相互評価	幼児の基本的な体操と少人数での運動遊びやゲームの様々な方法を理解し表現できる。	幼児の体操と少人数でのゲームの方法を記録し復習する。	45	主体性 実行力 課題発見力 規律性
5	幼児の個の動きや遊びを集団に広げていく方法を学ぶ。巧技台、平均台などの器具を使った遊びを体験しその指導法を学ぶ。	演習、実技 グループワーク、実技についての相互評価	巧技台、平均台などの器具を使った遊びを体験しその指導法を理解し表現できる。	器具を使った遊びの指導法を記録し復習する。	45	主体性 働きかけ力 実行力 状況把握力 規律性
6	幼児の個の動きや遊びを集団に広げていく方法を学ぶ。マットを使った遊びを体験しその指導法を学ぶ。	演習、実技 グループワーク、実技についての相互評価	マットを使った遊びを体験しその指導法を理解し表現できる。	マットを使った遊びの指導法を記録し復習する。	45	主体性 働きかけ力 実行力 状況把握力 規律性
7	幼児の個の動きや遊びを集団に広げていく方法を学ぶ。ものまね遊び、ロープを使った遊びを体験しその指導法を学ぶ。	演習、実技 グループワーク、実技についての相互評価	ものまね遊び、ロープを使った遊びを体験しその指導法を理解し表現できる。	ものまね遊び、ロープを使った遊びの指導法を記録し復習する。	45	主体性 働きかけ力 実行力 発信力 状況把握力 規律性
8	幼児の「ボール」を用いた運動遊びを体験し、その指導法を学ぶ。	演習、実技 実技についての相互評価	幼児の「ボール」を用いた運動遊びを体験し、その指導法を理解し表現できる。	「ボール」を用いた運動遊びの指導法を記録し復習する。	45	主体性 働きかけ力 実行力 発信力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9	幼児の「縄とび、新聞」を用いた運動あそびを体験し、その指導法を学ぶ。	演習、実技 実技についての相互評価	幼児の「縄とび、新聞」を用いた運動あそびを体験し、その指導法を理解し表現できる。	「縄とび、新聞」を用いた運動遊びの指導法を記録し復習する。	45	主体性 働きかけ力 実行力 発信力 規律性
10	幼児の「フープ、タスキ、棒」を用いた運動遊びを体験し、その指導法を学ぶ。	演習、実技 実技についての相互評価	幼児の「フープ、タスキ、棒」を用いた運動遊びを体験し、その指導法を理解し表現できる。	「フープ、タスキ、棒」を用いた運動遊びの指導法を記録し復習する。	45	主体性 働きかけ力 実行力 発信力 規律性
11	幼児の「玉入れ、マト当て」を用いた運動遊びを体験し、その指導法を学ぶ。	演習、実技 実技についての相互評価	幼児の「玉入れ、マト当て」を用いた運動遊びを体験し、その指導法を理解し表現できる。	「玉入れ、マト当て」を用いた運動遊びの指導法を記録し復習する。	45	主体性 実行力 発信力 規律性
12	幼児のルールのある遊びを通して、子ども健康に関わる心と体の発達の意義について学ぶ。	演習、実技 グループワーク、実技についての相互評価	幼児の自由遊びからルールのある遊びへの展開について具体的な遊びを理解し表現できる。	幼児の自由遊びからルールのある遊びへの展開について復習する。	45	主体性 働きかけ力 実行力 発信力 規律性
13	幼児のルールのある遊びを通して、子ども健康に関わる心と体の発達の意義について学ぶ	演習、実技 グループワーク、実技についての相互評価	幼児の自由遊びからルールのある遊びへの展開について具体的な遊びを理解し表現できる。	幼児の自由遊びからルールのある遊びへの展開について復習する。	45	主体性 働きかけ力 実行力 発信力 規律性
14	幼児のルールのある遊びを通して、子ども健康に関わる心と体の発達の意義について学ぶ	演習、実技 グループワーク、実技についての相互評価	幼児の自由遊びからルールのある遊びへの展開について具体的な遊びを理解し表現できる。	幼児の自由遊びからルールのある遊びへの展開について復習する。	45	主体性 働きかけ力 実行力 発信力 規律性
15	授業の中で体験した実技とその理論について、幼児、保育者それぞれの視点か考察する。	オンデマンドにて講義動画を配信する。	授業の中で体験した実技とその理論について、幼児、保育者それぞれの視点に立って考察し説明できる。	幼児、保育者それぞれの視点でこれまでのまとめをする。	45	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 創造力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

2024年度 愛知学泉短期大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
52422	幼児と健康II Health and Young Children II	伊藤照美		専門	1	必修	1後期

科目の概要

専門職に必要な知識や技能を習得し、体遊び・集団あそびなど動く楽しさを実践し、子どもたちの遊びが豊かにできるように発達段階に応じた指導内容と指導方法を身につける。(DP③)
 一般的な知識や専門的知識を習得し、人間の基本的要素である身体活動に必要なタイミング、バランス感覚を、最も体得しやすい幼児期に引き出す方法を学習する。(DP②③)
 また、子どもの発育・発達段階を理解し、健康な心と体を育てるための基本的な運動遊びと保育、及び安全対策について取り組み方や、実技試験における知識と技術を身につけていく。(DP②③)
 保育に必要な身体活動の必要性を理解し、就職試験や現場で及び地域など様々な場所で活かすことができるようにする。(DP①⑤)
 学びの過程で課題を発見し習得した知識を活用し、課題解決できる力を身につける。(DP④⑤)

学修内容	到達目標
① 幼児の発育・発達段階を理解し、運動と健康の関係について学習する。 ② 幼児の年齢、発達状況に応じた適切な運動・遊びを学習する。 ③ 動く楽しさを理解し、子どもの前で行うイメージをもちながら、遊びを説明できることを目的とする。 ④ 集団あそびを習得し、子どもの前で説明できることを目的とする。 ⑤ 保育者として必要な専門的知識や技術を身に付け、採用試験や保育現場など様々な場面で発揮できる。	① 保育者として必要な一般的な知識や専門的知識を習得し、幼児の発育・発達段階について理解できるようになる。(DP②③) ② 保育者として必要な専門的知識を習得し、発達状況に応じた適切な運動・遊びが理解できるようになる。(DP③) ③ 子どもの前で行っているイメージをもって、様々な場面で実践的に遊びを発表できるようになる。(DP④⑤) ④ 保育者として必要な専門的知識や技能を習得し、子どもたちと多種の集団あそびが行えるようになる。(DP③) ⑤ 保育者として必要な専門的知識や技術を身に付け、採用試験や保育現場など様々な場面で実践することができる。(DP①)

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素	学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例
---------------------	---------------------------

前に踏み出す力	主体性	自己の課題を認識し、自発的に学修に取り組むことができる。
	働きかけ力	
	実行力	幼児の遊びの技能とその指導法を習得できるように粘り強く取り組むことができる。
考え抜く力	課題発見力	幼児体育の指導法や安全管理についての問題点を認識できる。
	計画力	
	創造力	えられた課題に取り組み、それをどのように応用し発展させるかを創造できる。
チームで働く力	発信力	グループ活動において、自分の役割を自覚し、自分の考えを分かり易く相手に伝えることができる。
	傾聴力	傾聴力 他者の意見を尊重し、聞き入れることができる。
	柔軟性	
	状況把握力	
	規律性	遅刻・無断欠席をせず、学習意欲欠如をきたす行動をせず、授業が円滑に進行するようにルールを守ることができる。
	ストレスコントロール力	

テキスト及び参考文献

テキスト： 特になし。 参考資料を随時配布します。
 参考文献： 幼稚園教育要領（平成29年3月告示）、保育士指導要領、
 「たのしい運動あそび」岩崎洋子著：チャイルド本社、「体育あそび」米谷光弘著：ひかりのくに株式会社、
 「子どもが育つ運動あそび」倉真智子 大森宏一： 株式会社みらい

他科目との関連、資格との関連

他科目との関連： 幼児と健康 I、体育実技、体育講義。
 関連する資格： 保育士、幼稚園教諭、レクリエーションインストラクター

学修上の助言	受講生とのルール
<ul style="list-style-type: none"> ・ 演習で行った内容とその留意点を記録しておくこと ・ 子どもの視点と保育者の視点の両方から考えてほしい。 ・ 演習実技に対し積極的に取り組んでほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出席が必要回数に満たない場合は無資格となる。 ・ 課題実技を習得すること。 ・ 授業態度が悪く、他の学生の迷惑になる学生は退席してもらう

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント		
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①			
				②			
				③			
				④			
				⑤			
	平常評価	小テスト		0	①		
					②		
					③		
					④		
					⑤		
		レポート		30	①	✓	
					②	✓	
					③	✓	
					④	✓	
					⑤		
		成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）		60	①	✓	
					②	✓	
					③	✓	
					④	✓	
					⑤		
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓			
			②	✓			
			③	✓			
			④	✓			
			⑤				
総合評価割合			100				

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の運動遊びの技能を数多く習得できている。(A) ・ 幼児の発育発達と運動技能の習得過程について理解した上で、幼児体育の指導を实践できる。(A、S) ・ 周囲の状況を考慮し、臨機応変に対応ができる。(S) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の運動遊びの技能を習得できている。(C) ・ 幼児体育の指導を理解し実践できる。(B) ・ 幼児の活動に関する安全管理の方法を理解し実践できる。(B)

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1	オリエンテーション 子どもの発達と表現の特徴を学ぶ。	講義、演習	授業のねらいや内容、評価について理解できるようになる。	幼児の発達について予習・復習する。	30	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性
2	子ども健康と運動心と体の健康の関連と保育のあり方について学ぶ。	演習、実技後 実技についての相互評価 子どもの健康について理解しフィードバックする	授業のねらいや内容、評価について理解できるようになる。	歩く、走る、飛ぶ、手足の動作などを予習し、記録して復習する。	90	主体性 実行力 傾聴力 規律性
3	子どもの健康と運動 子どもの発育・発達の特徴について学ぶ。	演習、実技後 実技についての相互評価 子どもの健康と運動について理解しフィードバックする	AC幼児の基本的な体操と少人数での運動遊びやゲームの方法を理解できるようになる。	幼児の体操と少人数での運動遊びの方法を予習し、記録して復習する。	90	主体性 実行力 傾聴力 規律性
4	子どもの運動と健康 幼児の運動発達と遊びについて学ぶ。	演習、実技後 実技についての相互評価 幼児の運動発達と遊びについて理解しフィードバックする	幼児の基本的な体操と少人数での運動遊びやゲームの方法を理解できるようになる。	幼児の体操と少人数でのゲームの方法を予習し、記録して復習する。	90	主体性 実行力 課題発見力 発信力 傾聴力 規律性
5	運動遊びと安全対策 保育者としての遊びを通しての安全管理について学ぶ。	演習、実技後 実技についての相互評価 運動遊びと安全対策について理解しフィードバックする	器具を使った遊びを中心に安全管理について理解できるようになる。	器具を使った遊びの注意点を予習し、記録して復習する。	90	主体性 実行力 課題発見力 発信力 傾聴力 規律性
6	グループ実践 2.3歳児のふれあいあそび これまで学んだ遊びを対象年齢に合わせ、グループで話し合い構成・練習をする。	演習、実技後 パソコンを使用し対象年齢に合ったふれあいあそびを調べる グループワーク、実技についての相互評価 グループ内での意見を聞きフィードバックする	2.3歳児のふれあいあそびを体験しその指導法を理解できるようになる。	2.3歳児のふれあいあそびの指導法を予習し、記録して復習する。	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
7	グループ実践する。 4.5歳児のふれあいあそび これまで学んだ遊びを対象年齢に合わせ、グループで話し合い構成・練習をする。	演習、実技後 グループワーク、実技についての相互評価 グループ内での意見を聞きフィードバックする	4.5歳児のふれあいあそびを体験しその指導法を理解できるようになる。	4.5歳児のふれあいあそびの指導法予習し、記録して復習する。	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
8	グループ実践 子どもの集団遊び 5人前後でできる集団遊びをする。	演習、実技後、 フィードバックする。 グループワーク、実技についての相互評価 グループ実践を評価し、フィードバックする	5人前後でできる集団遊びを体験し、その指導法を理解できるようになる。	5人前後でできる集団遊びの指導法予習する。 5人前後でできる集団遊びの指導法を記録して復習する。	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9	グループ実践 子どもの集団遊び 10人前後でできる集団遊びをする。	演習、実技後 グループワーク、実技 についての相互評価 グループ実践の準備状 況を把握しフィード バックする	10人前後でできる集団 遊びを体験し、その指 導法を理解できるよう になる。	10人前後でできる集団 遊びの指導法を予習す る。 10人前後でできる集団 遊びの指導法を記録し 復習する。	90	主体性 実行力 課題発 見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
10	グループ実践 子どもの集団遊び 20人前後でできる集団 遊びをする。	演習、実技後 グループワーク、実技 についての相互評価 グループ実践を評価し フィードバックする	20人前後でできる集団 遊びを体験し、その指 導法を理解できるよう になる。	20人前後でできる集団 遊びの指導法を予習す る。 20人前後でできる集団 遊びの指導法記録し復 習する。	90	主体性 実行力 課題発 見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
11	グループ実践 子どもの集団遊び 30人以上でできる集団 遊びをする。	演習、実技後 グループワーク、実技 についての相互評価 グループ実践を評価し フィードバックする	30人以上でできる集団 遊びを体験し、その指 導法を理解できるよう になる。	30人以上でできる集団 遊びの指導法を予習す る。 30人前後でできる集団 遊びの指導法記録し復 習する。	90	主体性 実行力 課題発 見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
12	「課題」の実技試験に むけて ・集団遊びを考える ・実技試験の課題・方 法・マナーについて学 ぶ。	演習、実技後 グループワーク、実技 についての相互評価 課題実技試験に向け て、準備状況を把握し フィードバックする	幼児の自由遊びから ルールのある遊びへの 展開について具体的な 遊びを理解できるよう になる。	幼児の自由遊びから ルールのある遊びへの 展開について予習・復 習する。	90	主体性 実行力 課題発 見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
13	みんなの前でやってみ る 実践I 「課題」の実技試験 導入のポイントについ て実践する。	演習、実技後 グループワーク、実技 についての相互評価 ITC活用として学生に よるビデオ撮影と音響 実技試験に向けて、準 備状況を把握しフィード バックする	幼児の自由遊びから ルールのある遊びへの 展開について具体的な 遊びを理解できるよう になる。	幼児の自由遊びから ルールのある遊びへの 展開について予習・復 習する。	90	主体性 実行力 課題発 見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
14	みんなの前でやってみ る 実践II 「課題」の実技試験 導入のポイントについ て実践 する。	演習、実技後 グループワーク、実技 についての相互評価 ITC活用として学生に よるビデオ撮影と音響 実技試験に向けて総合 的に評価しフィード バックする	幼児の自由遊びから ルールのある遊びへの 展開について具体的な 遊びを理解できるよう になる。	幼児の自由遊びから ルールのある遊びへの 展開について予習・復 習する。	90	主体性 実行力 課題発 見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
15	オンデマンド まとめ・レポート作成 する。	オンデマンド 13回、14回の授業をビ デオを見ながら自己評 価しまとめる 幼児と健康についてを 総合的に評価しフィード バックする	授業の中で体験した実 技とその理論につい て、幼児、保育者それ ぞれの視点に立って考 察ができるようになる	幼児、保育者それぞ れの視点でこれまでのま とめをする レポート作成	90	主体性 実行力 課題発 見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力